

ここに
しかない
創造力

Working with us

詳しくはWEBサイトへ

recruit.nichia.co.jp



日亜化学工業株式会社

〒774-8601 徳島県阿南市上中町岡491番地

TEL: (0884) 23-7702 FAX: (0884) 21-0148

E-mail: shinsotsu@nichia.co.jp



人類の文明を発火させたのが“火”だとすれば、

その行く手を遥か未来に照らしたのは“光”ではなかったろうか。

1956年の創業以来、NICHIAは光の可能性を信じて愚直にものづくりに励み、

LED、半導体レーザー“LD”をはじめとした商品群によって世界を驚かせてきた。

けれど、大切なのは世界一を自慢することじゃない。

独自技術による世界一のものづくりで、未来に、

そして、かけがえのない地球環境に貢献することなんだ。

「Ever Researching for a Brighter World」の想いを、

時代を超えて一緒に届けていこう。

徳島発、二つとしてない創造力をあなたと共に。

NICHIA。

世界を 変えた 創造力

The creativity that changed the world.

HISTORY

無数の智慧の集積と無数の改良によって、世界一の商品を創ろう。

これを合言葉にNICHIAは、医薬原料の技術をもとに、蛍光体の分野へ。

それを糧にLED、半導体レーザー“LD”へと挑んできました。

そのあくなきものづくりの追及が、「世界初」や「世界シェアNo.1」の商品に結実。

未来をまばゆく照らしています。



医薬品原薬から、 蛍光体原料へ。

1948年、創業者の小川信雄が結核治療薬ストレプトマイシン用の無水塩化カルシウムの大量生産方式を確立。これが、照明用蛍光体原料である無水塩化カルシウムの製法を開発する礎でした。そして1956年、本格的な蛍光体原料の製造・販売に向け、日亜化学工業株式会社が船出しました。

“光”の基礎を築き、 未来を照らす。

1966年、蛍光灯用ハロリン酸カルシウム蛍光体の製造を開始。1967年には本社に蛍光体工場を設立。1985年には、蛍光体の生産量で世界第3位になるとともに100億円企業が目前に迫りました。また、1991年には二次電池であるリチウムイオン電池材料の開発を開始。蛍光体の応用分野への道をいち早く拓きました。

世界を変えた技術を、 絶やさず大切に育む。

1993年に青色発光ダイオード(LED)を、1996年にはLED技術にNICHIA独自の発想で蛍光体を組み合わせた白色LED、2007年には世界初の発光効率1ワット当たり150ルーメンの高効率白色LEDを次々に開発。一方、2000年の業界初の高出力紫色半導体レーザー開発を機にLDの開発を加速しています。



未来を 変える 創造力

Creativity to change the future.

NICHIAの 主力商品

NICHIAの革新商品、LED

世界に認められるNICHIAのLED。例えば世界トップクラスのシェアを誇る白色LEDは、日常生活のあらゆるシーンで普及。また、植物育成に効果的な波長を設定した「Hortisolis™」など、光の質を追求した次世代LEDを次々に創出しています。

新たな可能性を広げる、LD

LED開発で培った光デバイスの技術ノウハウを投入することでNICHIAが世界に先駆けたのが、窒化物半導体レーザー“LD”です。光ディスクストレージやレーザープロジェクタ用途だけでなく、産業用レーザーへの活用など、その可能性を拡大しています。

世界品質のLi電池材料

リチウムイオン電池用正極材料は、スマートフォン、モバイルパソコンなどの二次電池として広く利用されています。今後は電気自動車、エネルギー貯蔵用などの需要が期待されており、NICHIAも正極材料の世界有数のメーカーとして拡大展開を図っていきます。



暮らしと産業を大きく変えた、NICHIAのものづくり革命。

例えば民生品から最先端分野まで需要が拡大するLEDは、

今後、ますます普及率が高まることが予想されます。

また、神さまが創らなかった唯一の光といわれるレーザー、

青紫色LDもNICHIAが世界に先駆けたイノベーションのひとつ。

指向性の高さと制御しやすいという特長から

画期的な用途展開が期待されています。

さらにモータリゼーションの明日を加速するLi電池材料においても、

NICHIAのシェアは世界トップクラス。

想像を超えた光とエネルギーの創造力で、

未来をドラマティックに変えていきます。

面白いことは、やってみなさい。

NICHIAには社長室など、ありません。経営陣も、普通のフロアで従業員と共に過ごしています。「向上心があり、自らを磨く心を持ったエンジニアであれば、やってみたいことはやってみなさい」…そんな風通しのよさが自慢です。また、全社員が共有するのが「一、勉強しよう。一、よく考えてよく働こう。一、そして世界一の商品を創ろう。」というスローガン。立ちは大かた壁を打ち破り、やりたいことに挑んでいけるバイタリティーあふれるあなたと、私たちは一緒に働きたいと願っています。

面白

日本

日本でつくり、世界に売る。

商品は日本生まれ。販売拠点は世界中。これがNICHIAの躍進の方程式です。ものづくりは国内5工場での生産にこだわり、工場の製造装置までも自社内でつくっています。一方、Japan品質の商品群を世界中のお客さまにお届けするために、世界に販売ネットワークを拡大。直接、伺ったお客さまの声からニーズをキャッチし、次のものづくりへと反映するために、販売活動は代理店に頼ることなく、自分たちで行っています。

技術を 育む環境

革新



“世界で最も革新的な100社” に連続選出。

開発者の情熱と努力の賜物の一つが、光半導体をはじめとするNICHIAが有する数多くの特許。その成果が、保有する特許データを基に知財・特許動向を分析し、世界で最も革新的な企業・機関を選出する「Top 100 グローバル・イノベーター 2020[※]」に結実しました。これは2017、2018-2019に続き3年連続の選出となります。NICHIAの最大の競争力は全社員が一丸となって産み出した創造力と、どんなアイデアも受け入れる自由な社風。次はあなたが、どんなでもない技術で世界を驚かせる番です。

※米クラリベイト アナリティクス社の公表資料より。

夢創り

光とエネルギーを極める、 三つの技術研究拠点

NICHIAは国内に3つの研究開発拠点を擁しています。徳島研究所(TRC)と横浜研究所(YRC)では、光とエネルギーに関するテーマを中心とした先端技術の研究を担い、豊かな社会を実現する次世代商品の鍵となるデバイスや材料の創出を目指しています。また、横浜研究所(YRC)では、LED・LD応用機器の設計開発にも取り組んでおり、新コンセプトによる応用商品の開発を担う諏訪技術センター(STEC)と、本社工場・研究開発本部をはじめとした徳島の拠点群と連携しながら、光を創り、操り、そして極めるための研究開発を展開しています。

開発投資

価値ある研究開発、 設備投資には即断即決。

世界に二つとないものづくりへ、NICHIAが重視しているのが研究開発パワーです。例えば2010年から10年間に投じた研究開発費は2,500億円以上。設備投資も5,500億円以上。円高や海外勢の安値競争といったここ数年の逆風をものともせず、着実に研究開発投資・設備投資を実施し、持続的成長の種をまき続けています。NICHIAには研究開発や設備投資に対する予算を設けず、価値ある研究開発や設備投資なら費用に関わらず即断即決。この決断の速さが、競争力を加速し、社員のやる気をかき立てています。

2020年代には、 5,000億円規模の売上へ。

培った技術と時代のニーズを化学反応させたものづくりで、NICHIAは着実な成長を遂げてきました。特に白色LEDの爆発的な需要拡大などを機に2019年12月期の売上高(連結)は、10年前の約1.6倍、4,049億円。営業利益は550億円、営業利益率13.6%、自己資本比率90%と財務面に死角はありません。地道に本業にいそしみ、地に足をつけたものづくりによって2020年代には5,000億円規模の売上を目指しています。主要な成長エンジンは車載用Li電池材料・高機能LED・半導体レーザー“LD”ですが、そのために先行投資すべきは、多様性に富む技術に秀でたヤングパワーなのです。

安定

日本発の技術で、 世界を変える誇り

ものづくり立国・日本が輝いていた時代。

そのビジネスモデルは、丹精を込めた製品を国内で生産し、

世界に向けて販売するというものでした。

私たちNICHIAは、この伝統を受け継ぐ数少ない企業かもしれません。

日本の徳島で世界一のものづくりを進め、世界に売っていく…

この姿勢を私たちは貫きます。

NICHIAの体制

総合部門 (間接部門)

研究開発	光・エネルギーに関連する技術、素材の基礎的研究
生産技術	内製装置の設計開発
品質保証	製品等の検査・分析、品質保証・管理、顧客対応
ITシステム	社内システム開発・管理、AI・IoT・ビッグデータ・ロボット化
法務・知財	全世界での知的財産の権利化や契約実務
その他	総務・人事・経理・企画・調達・生産管理・環境・安全など

第一部門 (機能性化学品部門)

電池材料開発・技術・製造	Li電池用正極材開発・評価技術、製造技術、製造
機能性化学品開発・製造	磁性材料、蛍光体、金属錯体、光学系単結晶等の開発・製造
調達	第一部門関係の原料・消耗品の調達
営業	第一部門商品の国内外での販売

第二部門 (光半導体部門)

LED・LD商品開発	LED・LDチップ開発、材料開発、製法開発、パッケージ開発
LED・LD製造・製造技術	LED・LDの製造、工程設計・改良、生産合理化、品質安定化
応用商品開発	光源モジュールの商品開発
営業	第二部門商品の国内外での販売
その他	LED・LD事業企画・先行応用開発・加工技術・マーケティング



総合部門 生産技術本部 生産技術部
2015年入社 工学部 機械工学

Interview 01

世界一のものづくりへ、
装置を他人任せになんて
できない。



私の部署では、製造現場の重要な装置を設計しています。よく驚かれるのですが、NICHIAでは多種多様な装置を外部メーカーに頼ることなく、自社内でゼロから作っています。
なぜ内製にこだわるのかというと、一つにはNICHIAが培ってきた技術ノウハウを守るため。また、徒歩数分のところに現場があるので、現場と緊密な連携が取れ、購入装置ではできない、現場に即した装置作りが可能になります。世界一のものづくりのための「もの＝装置」のほとんどを私たちが作っているのですから、こんなやりがいには満ちた仕事はありません。
大変なのは商品の仕様変更への対応です。NICHIAの商品は小さなサイズのものが多いため、その仕様が少し変わるだけで装置側の仕様は大きく変わってしまいます。コストや装置の大きさ、納期などを考慮しながら、どうクリアするのかが腕の見せ所です。
私は岡山出身の徳島大学育ち。就活時にNICHIAのインターンシップに参加したのですが、その際に感じた若くても任せてくれそうな社風が入社を決め手でした。それにNICHIAはなにしろ大きい(笑)。地方にありながら社員が約9,000名の会社なんて、そうないんじゃないでしょうか。



Interview 02

開発者の情熱を
何とか特許という形に
してあげたい。

総合部門 法知本部 知財部
2015年入社 薬学部

知財部で、特許庁への特許申請から成立までを担当するとともに、技術・商品の権利侵害などを調べることも大切な役割です。NICHIAの技術・商品は独創的なものが多く、海外にも特許を申請するため、楽しくも目の回る毎日です。
日々実感するのは、NICHIAはとても技術を大切に会社だということです。特許は成立後も有効期限までお金がかかるのですが、それでも出資を惜しまないことに技術への愛情を感じます。
愛情といえば開発者の情熱も相当なもの。技術や商品は彼らにとって我が子同然ですから、私も何とかしてあげたくて、特許庁との交渉もつい力が入ってしまいます。また、開発者と知財部のスタッフが一堂に集う定例会では、開発中の技術・商品情報を共有するとともに、時には特許のプロとして他社動向をアドバイスすることもあります。こんな時、部署を超えたものづくりの一体感を感じますね。
私は徳島出身の転職組なのですが、世界一のものづくりを目指すこの地元企業は、何事にも熱中するのが好きな私にはぴったり。まとまった休みを取れることも入社理由の一つだったかな。



Interview 03

ワクワクしながら、
LDの可能性を追っている。



大学時代に光に関連する研究をしていたので、その分野のものづくり企業に入りたいと思っていました。調べてみるとNICHIAは研究開発に力を入れている印象がありましたし、利益率も高く業績も良かったんです(笑)。これは面白そうな会社だなって。入社当初はLEDの研究開発を担当していましたが、現在はLDの次世代応用技術の研究開発を担当しています。企業秘密が多いので歯がゆいのですが(笑)、ロードマップとしてはNICHIAのプロセスで可能かという検証を経て原理実験に1年程度、技術確立まで3年を予定しています。その夢に向けて私は今、LDのサンプル作りとその特性評価を行っています。勉強になるのは、自分たちの研究するテーマについて互いに発表し合う「定例会」です。時に先輩から鋭い突込みもありますが、次の方針を立てる上でとても参考になります。私がこのプロジェクトに参加できたのは、「大学の研究室と一緒にやって面白そうだな」と自ら手を挙げたことがきっかけでした。興味を持った仕事なら自分から手を挙げ、やりたいと発信してはどうでしょう。そんなやる気を受け入れる風土がNICHIAにはあります。



総合部門 研究開発本部
研究開発第一部
2016年入社
工学部 電気電子工学

第一部門 開発部
2012年入社 理学部 物理学



Interview 04

自分の考え方次第で、
世界は変わります。



私の所属する部署では小型のモーターやセンサーに使用されるSmFeN(サマリウム鉄窒素)ボンド磁石の開発をしています。NICHIAのSmFeNは「化学者が作る磁石」という観点から他にはない微細な美しい粒子がつくれます。この特徴は磁気特性にはもちろん複雑形状の成形にも有効です。SmFeNボンド磁石はまだあまり知られていないのですが、その可能性を信じて粘り強く作り続けるのがNICHIAらしさかもしれません。仕事に対する意識が大きく変わったのは、「チーム3σ(シグマ)プロジェクト」に参加した時です。「SmFeN」の品質安定化を目指したこのプロジェクトのメンバーはSmFeNを知りつくしたベテランばかり。製造の要である「還元拡散」工程の改善なんて私にできるのだろうかと不安でしたが、上司が「自分が何とかするという気持ちで頑張りなさい」って。自発的に行動することで、仕事はどんどん面白くなっていくことに気付かされました。NICHIAには育児休暇など女性が働きやすい環境が整っていますし、「自分がこうだと思ったら、どんどんやりなさい!」という雰囲気には満足していますので、若手でも遠慮なく仕事に打ち込めますよ。



第一部門 生産本部
B工場開発技術部
2012年入社
理工学部 物質化学

第二部門 車載事業統括部 車載LED開発部
2012年入社 工学部 システム工学

徳島出身の私にとってNICHIAは世界的企業でし、自動車が好きでしたので車載用のLEDをつくるNICHIAに就職できたと思っていました。現在は、車幅灯用LEDなどのパッケージ商品を開発し、灯具メーカーにご提案しています。自動車業界ですので海外企業も多く、そうしたお客様とやり取りするのは、とてもやりがいを感じますね。うれしかったのは、私が担当したLEDがある海外自動車メーカーに採用され、モーターショーに出展されたとき。ニュースを知ったときは思わずガッツポーズしていました。取り扱うLEDは3ミリほどで本当に小さな部品なのですが、車の安全性向上には欠かせません。企画や製造部門のメンバーと「どうしてこうなったのか?」「こうすればもっと良くなるのでは?」と試行錯誤するものづくりの醍醐味を日々、実感しています。NICHIAってそんな好奇心いっぱいの人たちの集まりなんです。私はLEDの専門知識がないシステム工学科出身ですので入社当初は不安でしたが、製造研修で実践的な知識、ノウハウを身につけることができましたし、製造現場のメンバーと知り合えたことも業務遂行の上で役立っています。好奇心こそ、ものづくりの原点。



Interview 05

夢は、世界中の車に
NICHIAのLEDを
載せること。



リチウムイオン電池の寿命を特に左右する正極材料の開発を担当しています。大学院で電池の材料を研究していたので、その分野に進みたくて色々企業を調べました。NICHIAはリチウムイオン電池正極材料のシェアでトップクラスでし、技術力を知るほどに、これはすごい会社だぞと…。私の担当している業務はまず、電池メーカーの求める性能に合致するように物性を調整し材料のサンプルを提供すること。苦勞するのは量産化への対応ですね。サンプルでは要求性能を満たしているのに、量産化の段階になると性能が再現されないことがあるのです。条件を何度も設定し直し、モグラ叩きの改善作業が続きます。NICHIAのものづくりって改善の連続なんです。そして、課題解決の答えを見つけれられるのも、製造と技術部門の距離感が近いというメリットをつくづく感じます。リチウムイオン電池は各社が開発競争にしのぎを削っているので何事もスピードが要求されますが、ご要望を満たしたときの達成感は計り知れません。オフタイムですか? 私はスポーツ好きなので、社有施設でテニスを満喫したりフットサルを楽しんでいますね。

Interview 06

創っているのは
モータリゼーションの
未来だ。





成長を支える研修制度

新入社員研修では、社会人としてのビジネススキルを習得。その後、現場での製造研修やOJT形式で実践的な知識・技能を身につけます。中堅社員や役職者を対象とした研修など、階層別教育も充実。技術系専門講座や語学研修など、職種・配属部署に応じたきめ細かなカリキュラムを用意しており、スキルアップを目指す社員一人ひとりを支える研修制度となっています。

社員の“学びたい”を応援

自己啓発の想いをサポートする社内制度も好評です。社員が人としての幅を広げるための投資なら、大歓迎。書籍など業務に必要なものは全額負担。また、資格試験、セミナー、通信教育、語学研修などに要する費用を、会社が全額または一部を補助しています。

社員の輝きが
新しい光を
生み出す。



主役は社員。頑張りにには、スポットライトを。

社員たちにとって、最高の栄誉が社長特別表彰です。画期的な新商品開発、工程合理化、性能向上への貢献度などが認められ、2019年度は7チーム計89名が受賞しています。その他、未来を照らす画期的な発明に対して贈られる知財特別表彰や、改善に取り組み大きな成果を挙げたチームへ贈られるQCサークル活動表彰などがあります。これらは社員のモチベーション向上に大きく繋がっています。

仕事はしっかり。 社内クラブで楽しさ、たっぷり。

NICHIAには、選ぶのに迷ってしまうほどの社内クラブが。スポーツ系は約50クラブ。文化系は約10クラブ。いかにも徳島らしいのが、阿波踊り! 日亜連と命名された阿波踊りクラブは毎年、LEDで徳島の夏を彩り、華麗な舞を披露しています。大会への参加費、会社名入りユニフォーム作成費、体育館使用料などの全額／半額補助の補助金制度も整っています。



毎週水曜日はノー残業デー。

全社的な業務効率を上げることで残業を減らすとともに、毎週水曜日はノー残業デーに。メリハリをつけ、仕事とプライベートの充実を図っています。ちなみに残業時間は、全社平均して1日1時間未満。ワークライフバランスの実現で毎日フル充電できます。

育児休暇は 女性の100%が利用。

育児休暇は子供が3歳に達するまで取得可能です。また時短勤務も小学校就学まで可能で、3歳から6歳までの子供を持つ女性の80%以上がこの制度を利用し、活躍しています。



高い有給取得率と 125日の年間休日。

有給の取得率は平均87%と高率です。また、年間休日は、GW・夏期休暇・年末年始休暇など125日。GW・夏休みは1週間以上と長いので、有給取得と合わせて多くの社員が趣味や海外旅行を満喫しています。

徳島の暮らし

NICHIAの暮らし

LIFE

安心の生活環境が、ここに。

年間晴れ日数が全国第2位の徳島は、気候も人の心も穏やか。人口当たりの幼稚園の数、医者数が全国第1位で、公園や学習塾も数多くあります。スーパーの営業時間が長いのも、意外と便利。子どもの豊かな成長を見守る環境が整っています。



HOME

充実の住環境と家賃・通勤補助。

会社近くに多くの社宅を完備し、自己負担額は2.1万円から。家具・家電を完備した敷地内の独身用社宅も、実家から勤務地までの距離が30km以上あれば入居できます。また、マイカー通勤者用に1人1台の駐車場を完備し通勤距離に応じた通勤手当を支給するほか、自転車通勤の奨励金支給制度もあります。



独身用社宅



家族用社宅



SPOT

海、川、山、そして人気スポット。

自然がいっぱい。美味しさいっぱい。楽しさいっぱい。何でもあるのが、徳島なんです。レジャーや遊びに夢中になり過ぎて仕事がおろそかにならないよう、くれぐれも気を付けてください。



ACCESS

アクセス便利な徳島。

長距離バスが充実し、徳島市から神戸市内へ高速バスで1時間50分、大阪市内へ2時間20分。四国縦貫・横断自動車道の開通で、車での移動がますます便利に。空路は徳島-羽田間が一日10往復便(2020年)。本日も、徳島駅から車で40分程度です。



■神戸市内

1時間50分

■大阪市内

2時間20分

■徳島 - 羽田

10往復便 / 1日

● 鳴門工場

● 徳島阿波おどり空港

● 徳島工場



日亜水族館の
オヤニラミ
蛍館



HEALING

水族館や蛍館で癒しのひと時

本社構内にはオヤニラミなどの絶滅危惧種や蛍、チョウザメなど希少な生物を保護、育成する水族館や蛍館があり、休憩時間の気分転換にもってこい。社員の家族連れ也大歓迎ですので、子供の環境学習の場に利用するといいでしょ。桜の開花や蛍が飛び立つ時期など、四季折々の構内イベントも盛りだくさんです。

● 本社工場

● 辰巳工場



本社厚生棟



本社構内の桜

● 新野工場

辰巳工場フットサル場



SPORTS FACILITIES

気軽に利用できる社有スポーツ施設

休日は、会社所有のスポーツ施設で職場の仲間や家族と共に気持ちのいい汗を流しましょう。本社や辰巳工場にはテニスコート、辰巳工場にはフットサル場が。また鳴門工場には、硬式野球ができる本格的な野球場が完備されています。

本社テニスコート

